

平成 21 年度中間決算の概要について

平成 21 年 12 月 17 日
(社) 第二地方銀行協会

会員行の平成 21 年度中間決算(単体)の概要は以下のとおり。

(注) 計数は平成 21 年 9 月末時点の会員行 44 行ベース。

1. 損益概況(業務純益: 1,581 億円、経常利益: 558 億円、中間純利益: 499 億円)

平成 21 年度中間決算の業務純益は、国債等債券関係損益の黒字化や、一般貸倒引当金繰入の減少から、増益(前年同期比 +45.4%)となった。

経常利益は、個別貸倒引当金繰入、貸出金償却等の与信費用の減少による臨時損益の赤字幅縮小を主因に黒字化し、これを受けて、中間純利益も黒字に転化した。

2. 業務純益の状況

(1) 資金利益(4,853 億円、前年同期比 219 億円、4.3%)

資金利益は、前年同期比 4.3%減少し 4,853 億円となった。

この内訳をみると、預貸金収支は、貸出金残高(平残)は増加したものの、預貸金粗利鞘が縮小したことから、同 2.1%減少して、4,016 億円となった。

また、有価証券利息配当金は、外国証券利息収入、株式配当金、国債利息収入の減少等により、同 10.3%減少して 875 億円となった。

(2) 役務取引等利益(286 億円、前年同期比 94 億円、24.7%)

役務取引等利益は、投信窓販業務手数料、預金・貸出金業務手数料、為替業務手数料の減少等により、前年同期比 24.7%の減益となった。

(3) その他業務利益(229 億円、前年同期比 +599 億円の改善)

その他業務利益は、投資信託や外国証券にかかる減損処理が前年度中間期に比べ大幅に減少したことを主因に国債等債券関係損益が益超に転じたことから、229 億円の黒字(前年同期は 370 億円の赤字)となった。

(4) 経費(3,729 億円、前年同期比 80 億円、2.1%)

経費は、会員行がコスト削減に注力した結果、人件費、物件費ともに減少した。

3. 不良債権処理の状況

不良債権処理額は、前年度中間期に多額の処理を行ったことや、緊急保証制度の活用等もあり、大幅に減少（前年同期比 37.5%）した。

また、金融再生法開示債権（破産更生等債権、危険債権、要管理債権）は、危険債権、要管理債権が貸出条件緩和債権の基準見直しの活用等により小幅の増加に止まったこと、また、破産更生等債権の最終処理が進んだことにより、全体として平成 21 年 3 月末比 0.5%の減少となり、開示債権比率も同 0.03%ポイント低下して 4.27%となった。

4. 経常利益および中間純利益の状況

経常利益は、業務純益が増加したことに加え、臨時損益の赤字幅が縮小した結果、558 億円の黒字となった。なお、臨時損益は、個別貸倒引当金繰入ならびに貸出金償却の減少を主因に、1,022 億円の損超となった。

この結果、中間純利益は 499 億円の黒字となった。

5. 単体自己資本比率（9.93%）

単体自己資本比率は、自己資本額が中間純利益の黒字化や公的資金による資本受入により増加し、リスクアセットが国債等の低リスクウェイト資産へのシフト等により減少した結果、平成 21 年 3 月末比 +0.33%ポイント上昇して 9.93%となった。また、Tier 比率は同 +0.31%ポイント上昇して 7.51%となった。

6. 預金および貸出金（末残）

(1) 預金（56 兆 8,845 億円）

預金（末残）は、前年同期末比 +1 兆 2,565 億円、+2.3%増加して 56 兆 8,845 億円となった。預金者別にみると、一般法人預金、個人預金はともに増加した。種類別にみると、要求払預金、定期性預金はともに増加した。また、外貨預金は為替円高を背景に高い伸びを維持した。

(2) 貸出金（43 兆 6,640 億円）

貸出金（末残）は、前年同期末比 +6,055 億円、+1.4%増加して 43 兆 6,640 億円となった。

以上